

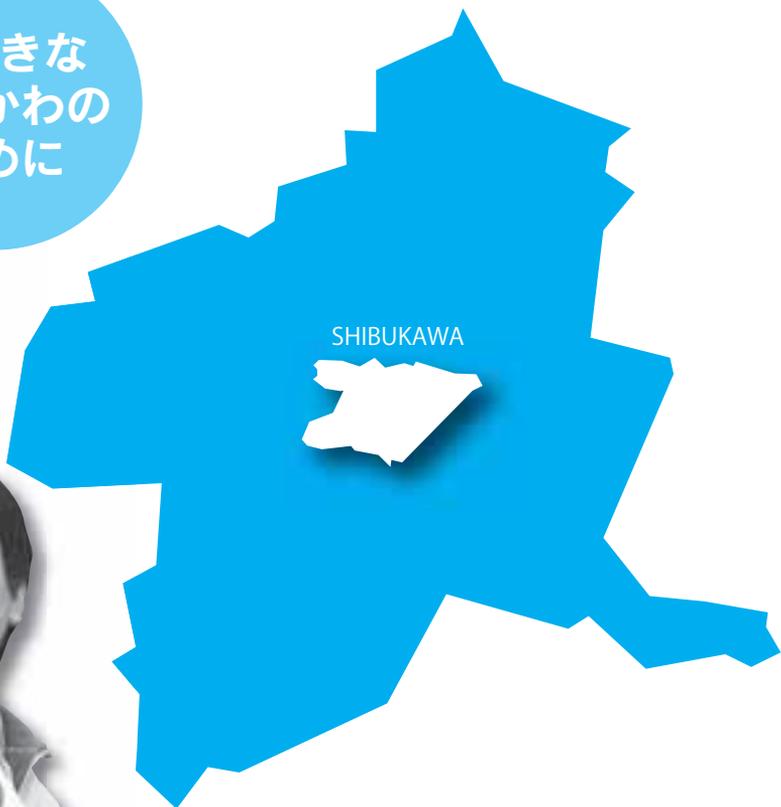
初心忘れず12年。今、県政に立つ

86,000市民の願い・希望・夢の実現をめざして
ひたすらに、走り続けた若きエース

金子わたる

無所属 40才

大好きな
しぶかわの
ために



ひかない！
まけない！
あきらめない！

日頃より私の議員活動にご指導・ご協力・ご助言をいただきありがとうございます。
とうございませす。

12年前、ふるさと茨川市のために自分のもてる力の全てを発揮し、元氣な、夢と希望と誇りのもてるまちをつくりたいと決意し、市議会に挑戦し、3期目の任期満了を迎えようとしています。

この間、皆さまに支えられ、毎議会での一般質問、議会報告の発行等、市民と市議会・市政をつな

ぐことを第一に考え、議員活動を続けてきました。

そして、この度、茨川の声を県政に届けるために、県政を皆さまの身近なものにするために、群馬県議会議員選挙に挑戦することを決意いたしました。

県行政のチェック機能はもちろん、茨川市民の声を県政の場まで届けると同時に、群馬県政を市民の皆さまに分かりやすくお伝えする。それが、県議会議員の役割です。私は、必ず県政・県議会報告をし、わかる県政・身近な県政を実現させます。そして、掲げた約束を忘れることなく、皆さまとともに群馬に新しい風を起こす活動をすることをお誓いいたします。

皆さまの力強いご支援をよろしくお願いいたします。

金子わたるの決意



わたるは初心を忘れません
.....
続けます朝のあいさつ
寒さ暑さに負けず朝の街頭に立ち、手を振り、声を出してあいさつすることで、市民の目線で活動するという初心を忘れることはありません。

わたるは約束します
.....
8万6000市民の声を届けます
(あなたの声を県政へ)
皆さんの要望を県政に届けるため、県議会や委員会での発言、そして県民局、行政事務所にこまめに足を運びます。

わたるは続けます
.....
『わ・わ・わ通信』県政版をお届けします
(県政をあなたのそばに)
初議会以来発行している『わ・わ・わ通信』は紙面を市政版から県政版にかえ、これからも皆さまにお届けいたします。

わたるはやりませす
.....
やります決意を込めて 現場第一主義を
皆さまからの要望には、まず自分の目で現地を見て確認し、県行政に届けていきます。現場第一主義は県政の場でも貫きます。

12年の活動が証す、金子わたるの揺るがない姿勢

1 おはよびげいざい 今日もお元気で

28歳で渋川市議会議員に初当選して以来、通勤する方々に、通学する学生さんに、道行く人々に、朝のあいさつを続けています。

立候補を決意してから自分に言い聞かせてきた「おごり高ぶるな」「うぬぼれるな」という自戒の言葉。若さゆえの心の緩みは絶対にあつてはならないという私の決意です。

朝の街頭あいさつも11年を過ぎました。



2 一回も休まず続けた 一般質問

市民の代弁者として、皆さまの願い、夢、希望、つばやきを議会の場において、市政にぶつけてきました。

初当選以来一回も休むことなく一般質問を続け、市民の皆さまからの聞える声、聞えない声を、自分の足で目で確かめ、生活現場第一主義で市政に届ける活動を続けてきました。



3 『わ・わ・わ通信』発行 数えて102号

市民と議会をつなぐ『金子わたるの市政・議会報告』。

わたるのわ！人の和のわ！輪が広がるのわ！対話のわ！平和のわ！

市政を「身近なものに、わかりやすいものに」をめざして、初当選後

最初の定例市議会から「わ・わ・わ通信」

を発行してきました。

何が問題なのか、なぜ議案に反対したのか。市の現状を、自分の考えを皆さまに伝えてきました。もう102号になっています。



市民の声1 わたしの家は有権者4人です。いろいろな関係があつて9人の市議会議員の後援会員になっていますが、今でも議会報告を毎回のように届けてくれるのはわたるさんだけです。

市民の声2 我が家は娘がわたるの後援会に入っています。おかげで毎回『わ・わ・わ通信』を読ませてもらっています。広報にはないこともたくさん載っていて、とっても役に立っています。

市民の声3 私は最初の時の選挙、悪かったけどわたるさんには投票しなかったの。でも、あれだけ『わ・わ・わ通信』を届けてくれると。それで2回目から書いたの『金子わたる』って。わたるさんのおかげで、本当に市政が身近でわかりやすいものになっているの。

このまち 渡るさと 市議としての実績を活かして 渋川から群馬を変える

1 子育て支援の充実

少子化が進む中、保育園、幼稚園、学童保育所の充実が大切です。中学校卒業までの医療費無料化が実現し、渋川市も第3子の保育料無料化の拡大が実現しました。今後は小規模学童保育所への補助拡大が必要です。

金子わたるは2児の父親です。子育て世代の代表として、様々な声を市政に届けてきました。

県政でもこの活動はかわりません。「子育てするなら群馬県」の具現化に取り組んでいきます。

1



2 自ら考え、生きる力を育む教育

金子わたるは、教育における学校・地域・家庭の三者連携の重要性を訴え、地域で子ども達を育てる環境づくりに取り組んできました。

現在の課題は、インターネット付き携帯電話の危険から子ども達を守るシステムを、三者連携でつくることです。

学校耐震化やパソコン整備等のハード面での充実は進んでいます。これからはソフト面の充実です。生きる力を育むための総合学習や職場体験では、私が協力している高齢者施設でも児童・生徒の受入れに取り組んでいます。

2



3 地域医療再生に向け全力で取り組む

地方の医療崩壊が叫ばれる中、金子わたるは渋川市の地域医療再生に取り組んできました。

渋川総合病院の新5力年計画の実現、抜本的改革、医師確保のために、一般質問等を通じてがんばってきました。

渋川地区医師会の協力なしに地域医療の充実はできません。准看護学校は閉校しましたが、新看護学校の開校に向けて医師会の先生方と協力し、地域医療を守るために全力をつくしています。

3



4 ノーマライゼーション社会の実現

平成12年に介護保険制度が始まりましたが、市内の入所施設は不足し、整備が急がれていました。

金子わたるは市内に高齢者福祉施設をつくるため、医療法人と協力し、設立計画から設置申請、設計、建設、許可申請まで携わり、開設を実現しました。介護予防をはじめ、地域福祉のエキスパートとして県内全域で活躍しています。

高齢者福祉、障がい者（児）福祉の充実のため、先頭に立ってがんばり続けています。

4



市議としての実績を活かして このまち 渋川から ふるさと 群馬を変える

5 地域の特性を活かしたまちづくり

渋川市には赤城・榛名・子持・小野子の山々や、利根川や吾妻川等の豊かな自然があります。

金子わたるは、この特色ある自然を活かしたまちづくりこそが、地域の活性化につながると提言してきました。

活動している渋川青年会議所では、親子ふれあい農業体験事業の開催を通して、グリーンツーリズムを实践してきました。仲間との話からヒントを得て、鮎釣りをキーワードにした誘客も提言してきました。都市人口を呼び込むことで地域が元気になる。

県政でも活かせるビジョンです。

7 安心して暮らせる安全なまちに

子どもたちを凶悪犯罪から守るために、安心・安全パトロールが市内全域で実施されています。金子わたるも妻とともに緑のジャンパーで参加しています。

そして、火災や地震等、予期せぬ災害から住民を守るための消防団活動も10年が経ちました。現在は第6分団の分団長として活動しています。

いつでも、どこでも、8万6000市民の命と暮らしを守るために、全力を尽くしてきました。

この経験を県政の場でも活かしていきます。



6 JR湘南新宿ライン 渋川駅への乗り入れ実現で地域の活性化を

渋川市内には8つものJRの駅があります。

加えて、渋川伊香保IC・赤城ICもあり、さらには前橋・渋川バイパスの開通、高崎・渋川バイパス・上信自動車道の実施計画と、交通網の中心として恵まれています。

これを活かす方法は何か……。湘南新宿ラインの渋川駅への乗り入れで、地域の活性化を図る等、観光、農業、工業、商業のバランスがとれた渋川をつくり、交流文化都市への転換が必要です。

8 環境を守り循環型社会への発展を

金子わたるは、バイオマスタウン構想や新エネルギービジョン策定の提言等、常に環境に配慮した政策を訴え、かつ実行してきました。

小水力発電等の豊かな自然を活かしたエコ。廃油や食品残渣等の再利用のエコ。木質や畜産バイオマスの利活用でエコ。エコキャップ回収でエコ教育。今は、社会全体で『エコ』を考え、取り組んでいく時代です。

群馬県環境アドバイザーとしての経験や、資源循環型社会に対する金子わたるの構想が必ず役に立ちます。

真っ直ぐな少年から、市議に ふるさと渋川への思いは 誰にも負けない



青春の1ページ

渋川中学校の生徒会長

Ⅱ子ども議会の議員にⅡ

渋川中学校では生徒会長だったわたる少年。全校生徒の代表として生徒会活動に熱中しました。所属していた部活はバスケット部。

ちょっと生意気だけど、面倒見のいい、何よりも友達を大切にしている少年でした。

そんなわたる少年に、渋川市長から『第一回子ども議会』の議員の委嘱状が届いたのが、3年生の夏。初めての子ども議会でも、臆することなく質問に立ちました。

内容は「勉強しやすい環境づくりとそ



生徒会長として体育祭で旗手を務める

手腕を振るい、演劇部の部長として舞台上立った文化祭は大成功。

一方で、「舞台裏にまわってはじめてわかる準備の重要性和苦勞の多さ」も実感。この時に学んだ、仲間との共同作業の大切さ、仲間と一つのことをやり遂げる喜びは、議員となった今でも心の支えになっています。

大学でドイツ語を学び

医学雑誌の編集者に

来たるべき21世紀に向けて一番求められているものは何か。外国語の重要性を肌で感じ取っていた金子わたるは、獨協大学外国語学部へ進学します。

卒業後は、医学雑誌の編集者として活躍後、フリーの編集者として自動車や時計、ファッション誌の編集に携わりました。



取材で学会に出席（平成8年）

のための設備改善」でした。現在のわたる議員の基礎をつくる、記念すべき議会勉強の始まりがこの質問でした。

渋川高校では文化祭実行委員長

Ⅱ第17回榛嶺祭Ⅱ

渋川高校に進学後は、水泳部と演劇部を両立させ、水泳で体を鍛え、演劇で自己表現をする。少々目立ちたがり屋のわたる少年にはびつたり部活動でした。

そこに目をつけたのが、当時の同級生達。2年に一度の文化祭を盛り上げるのに最適だと実行委員長を任されることに。実行委員長として

海外への取材も経験。中でもドイツへの取材メンバーに選ばれたのは、大学でドイツ語を学んでいたことが大きな要素に。

ドイツ語とのつながりの深い医学雑誌の編集をはじめ、大学で習得した知識を武器に充実した編集者生活を送っていました。

ふるさと渋川に帰り

渋川市議会議員

編集者時代、自分よりも厳しい環境の中で、頑張つて働いている多くの人達がいることを、様々な場面で目の当たりにしてきました。

そんな人達の役に立ちたいと思い、帰郷を決意したのが、27歳の時。編集者として培った経験を生かしながら、明るさと若さと抜群の行動力で、故郷渋川のために働きたいと28歳で市議会議員に立候補し初当選。

以来11年間、初心を忘れることなく今日もまた、お年寄りや女性、子ども達、働く人々のために、現場第一主義で走り続けています。



現場第一主義をモットーに

history

私たちの子どもや孫の世代のために



【金子わたるプロフィール】

1970年 渋川市生まれの39歳妻と一男一女の4人家族
豊秋小学校、渋川中学校、渋川高等学校卒業後、
獨協大学外国語学部へ進学
卒業後、出版社勤務を経てフリー編集者として活躍
ふるさと渋川に戻り、平成11年4月 渋川市議会議員に
初当選、現在3期目



【議会の経歴】

議会運営委員会副委員長、議会報編集委員会副委員長、教育福祉常任委員、経済建設常任委員、予算・決算特別委員会委員長、都市計画審議会委員、青少年問題協議会委員、青少年センター運営協議会委員、文化行政懇談会委員

【主な活動歴】

渋川市消防団第6分団分団長
(社)渋川青年会議所専務理事
渋川商工会議所青年部総務委員長・理事
渋川市倫理法人会幹事
群馬若手議員の会「新風塾」役員
関東若手市議会議員の会会長
全国若手市議会議員の会役員
自治体議会政策学会会員
在宅ケアネット渋川会員
NPO 日本福祉教育研究所会員
群馬県環境アドバイザー
渋川市体育協会理事
渋川テニス協会会長
渋川水泳協会顧問
渋川ジュニアスキークラブ理事
渋川市武道振興会参与

金子わたる後援会 部内資料
連絡所：渋川市石原 1498-26